SCREEN

EQUIOS

User Report：株式会社廣済堂

EQUIOSワークフローの構築で 能率・効率アップと人的要因によるミスを撲滅

廣済堂は面付けソフトにファシリス、出力にTrueflow SEやFlatRunnerを使い、高速かつ大量に処理できるワークフローを構築していた。しかしながら、面付け作業がボトルネックになって業務ミスが目立つようになったことから、2013年4月にEQUIOSワークフローを導入。面付けの標準化、一元化を図ってオペレーションミスをなくし、前工程全体の作業時間を大幅に削減させた。


生産統括部　部長
松浦　稔 氏


プリプレス部　部長
田中　康弘 氏


プリプレス課　課長
横山　克己 氏

スキルに頼らない仕事の標準化が緊急課題に

株式会社廣済堂は「文字の廣済堂」として広く業界でその名を知られる。1970年には、早くもデジタル技術の将来性に着目し、日本で初となるコンピューター文字組版システムを導入。ここで培ったデジタル情報加工技術をベースに、1990年代からはIT分野にも事業を拡大していった。

それ以降もたゆまざる変革を重ね、今では「情報コミュニケーション事業」（パブリッシングサービス、一般企業支援トータルサービス、学校向けサービス、美術館・博物館向けサービス、ケーブルテレビ事業会社向けサービスなど）、「ヒューマンコミュニケーション事業」（求人メディア、人材紹介・人材派遣など）という2つの大きな事業領域をもつ。これら事業については、市場調査から企画・開発、アフターメンテナンスまでの高次元のワンストップサービスを提供、顧客が抱える課題をトータルに解決する。

情報コミュニケーション関西事業本部では、書籍をはじめとするページ物を主体に、安定的な印刷物の受注確保に努めている。

生産統括部の松浦稔統括部長にワークフローと印刷環境での現状の課題をお聞きした。

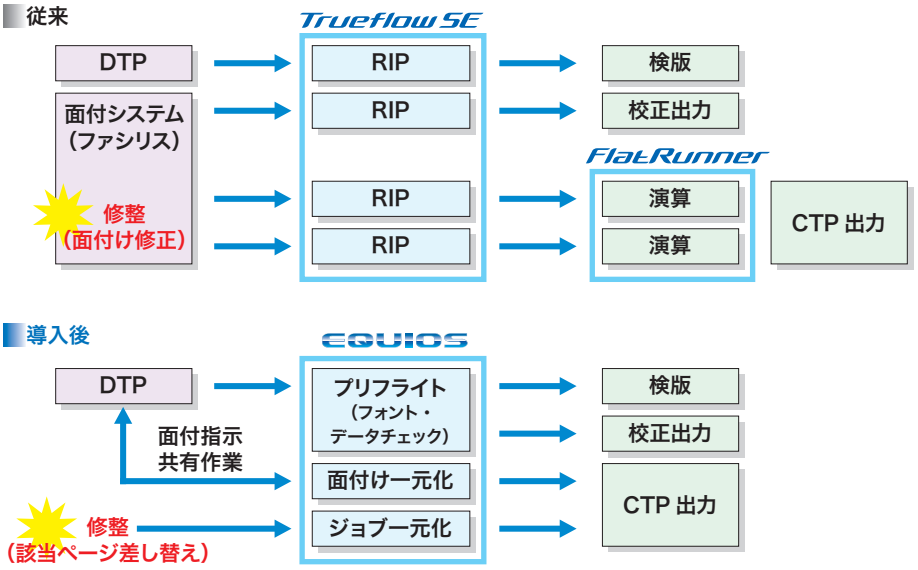
「われわれはCTPを数台所有し、高速で大量に処理するワークフローをいち早く構築しました。しかしながら、顧客の満足度を高めるためにさらなる効率化・省力化を目指す必要に迫られました。一例を挙げると、面付けソフトで単ページや製版校正、CTP出力など、面付けパターンごとに出力作業を行っていたのですが、その度に演算が発生し、作業負担が重くなったうえ、オペレーションミスも発生していました。直しが発生した場合は、その都度面付けソフトに戻って作業しなければならず、効率の悪さも目立ち始めました」

その一方で、ベテランオペレーターも増えてきており、誰でも使え、スキルに頼らない仕事の標準化が必要とされてきた。

定型の物や定期物などすぐに取りかかれるものから順に運用

作業時間の短縮と人的なミスの撲滅を目指し、2011年末から新たな面付けソフトとフローの検討を開始した。プリプレス部の田中康弘部長は、EQUIOSの導入に至るまでの経緯を「生産の効率向上とミス・ロスの削減が至上命令として与えられていたのですが、現状のフローでは限界がきていると思いましたので、新たなソフトやフローを構築することにしました。他のシステムも検討したのですが、面付けやジョブの一元化ができ、またデジタルフィルムとしてのOutlinePDFなどで安定した運用実績がありましたので、TrueflowSEの後継機としてEQUIOSに注目しました」と話す。

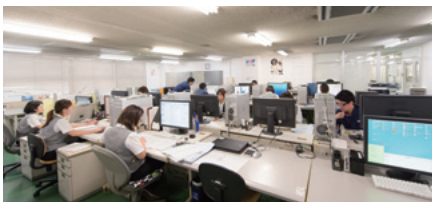
同社ではそれまで、面付けにファシリスのソフト、出力にTrueflow SEやFlatRunnerで運用していた。新しいワークフローの選定については、田中部長とプリプレス課の横山克己課長、技術スタッフの3人で、EQUIOSは他社のソフトとど



こがどう違うか、どのくらいの効果が期待できるかを協議・検討。Trueflow SEでの導入実績、サポート実績が豊富であることと、自動化、ローコストオペレーションなどを総合的に評価して、EQUIOSワークフローの導入に踏み切った。

「決め手になったのは、悩みの種であった面付け作業の効率アップが図れ、ヒューマンエラーを減らせるということです。導入前にはメディアテクノロジー ジャパンのメンバーと相談しながら、実データを使ってシミュレーションを繰り返しました」と田中部長。

同社で取り扱っている印刷物の7、8割は定型パターンの仕事。EQUIOSの導入にあたってはまず定型の物や定期物など、すぐに取りかかれるものから順に進めていくことを決めていたそうだ。





生産性は10～20%も向上

EQUIOSを導入したのは今年4月。オペレーションがTrueflow SEと類似しており、直感的に分かりやすかったこともあり、オペレーターは比較的短期間で操作をマスターすることができた。

ワークフローの変更にあたっては、社内での教育や社員の意識改革に力を入れた。

横山課長は「これまでは各部署、各作業でそれぞれ個々に動いていました。EQUIOSの導入効果を上げるには、製版・制作部門の連携が不可欠ですから、ワークフローに応じた事前教育はみっちり行いました。ただ、作業者はそれまで使っていた面付けソフトに慣れていましたので、EQUIOSの面付け作成に切り換えるのに少々てこずりました。そんなこともあって、立ち上げ当初は1週間から2週間ほどのスパンでエムティサービス西日本の技術者が来られ、実作業の流れに応じて的確に支援してくださいました。あれでさまざまな課題を克服することができたように思います」と振り返る。

実際に立ち上げてからは、EQUIOSならジョブで面付けを変更するだけで、出力先を変えることができるという特長をフルに活用し、オペレーションミスを激減させ、大幅な業務の時間短縮を図った。2GBを超えるファイルを扱うことができるため、事前準備として行われていたファイル分割などの手間も解消。結果的に生産性が10～20%程度も向上したそうだ。

EQUIOSの運用を定型の物や定期物の面付けからスタートさせた廣済堂は、経験を積み重ねるに従ってスムーズに使いこなせるようになり、今では各種印刷物に活用できるようになった。

「かつては絵柄の大きいもの、版サイズの大きいものは一昼夜おいても処理が終わらないというトラブルもあったのですが、重いファイルでもスムーズに処理できるようになりました。これもEQUIOSの導入効果です」（横山課長）。

今後、印刷業界にはますますの小ロット化、短納期化、高品質が問われるようになるのは間違いない。「われわれもその部分を強化し、さらなる合理化を図っていかなければなりません。EQUIOSによって自動化、連携など幅広い運用体制を構築していきたいと考えています。将来的にはオフセット印刷からPODに変わっていくかもしれません。スクリーングループの方々にはPODを含めた総合的なワークフローの提案を期待しています」（松浦統括部長）。

社名の「廣済」には、「広く社会に貢献する」という意味がある。長年の経験とノウハウに新しい技術や発想をプラスし、時代に応じたコミュニケーションのスタイルを創造してクライアントのビジネスを力強く支援する。



株式会社廣済堂
住　所　本社　東京都港区芝4丁目6-12
　　関西事業本部　大阪府豊中市蛍池西町2-2-1
代表者　代表取締役社長　長代 厚生
創　業　1949年
従業員数　1,048人

SCREEN
株式会社 メディアテクノロジー ジャパン
〒135-0044 東京都江東区越中島1-1-1 ヤマタネ深川1号館
http://www.mtjn.co.jp/
東京支店／03(5621)8266(代) 大阪支店／06(6268)6600(代) 名古屋支店／052(218)6400(代)
福岡支店／092(436)7081(代) 北海道営業所／011(726)0707(代) 東北営業所／022(224)1741(代)
新潟営業所／025(241)0112(代) 静岡営業所／054(281)0955(代) 長野営業所／026(224)5770(代)
金沢営業所／076(292)2345(代) 京都営業所／075(326)1350(代) 中国営業所／082(264)6451(代)
四国営業所／087(837)8151(代)

大日本スクリーン製造株式会社 メディア&プレシジョンテクノロジーカンパニー
〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目
http://www.screen.co.jp/

※本カタログは、弊社の Fairdot 2 で印刷しています。
※本カタログは、弊社の千都フォントを使用しています。
※本カタログの各商品名は各社の商標・登録商標です。
※本カタログの仕様ならびに商品デザインは改良のため予告なしに変更されることがあります。
※本カタログに掲載している商品は、日本国内仕様です。

No.190-127 2014年1月発行 060 3SI (R0-0)